学校だより

３月号

令和６年２月２９日
足立区立舎人第一小学校
校長　澁谷あゆみ

人はさよならの数だけ愛を知る

副校長　山田　実也

「一月往ぬる二月逃げる三月去る」といいます。正月から３月までは行事が多く、月日が足早に過ぎてしまうことをいったものです。コロナウイルス感染症が５類感染症へと移行し、行事などが通常通りにもどったため、例年より忙しいと感じてしまいます。

いよいよ今年度のまとめとなる３月を迎えます。子どもたちの成長には、一人ひとりの頑張りと努力が、そして、それを支えてくださったたくさんの人の励ましがあったことと思います。ぜひ、ご家庭でも、卒業や進級を前に１年間を振り返り、お子様の成長を一緒に喜んでください。また、子どもたちには、一日一日を大切にして、クラスの友だちや先生と、多くの思い出をつくってほしいと思います。

そして、３月はお別れの月でもあります。

映画監督の故・大林宣彦さんが、映画の中でいつも使う別れの言葉は、「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」だそうです。

「ありがとう」とは、二人を出会わせてくれた運命と、ぼくに出会ってくれたあなたへの感謝。「ごめんなさい」はそのあなたにもらったものの大きさに対して、ぼくがあげることのできなかった多くの事についての申し訳なさ。そして最後には、礼儀正しく「さようなら」。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ愛を知るのだそうです。

舎人第一小の教育目標は「よく考えて　工夫する子」「すなおで　思いやりのある子」「たくましく　やりぬく子」ですが、この１年間、教室や校庭では、毎日のように「わかった」「できた」とともに「まだわからない」「もう少し」の声も聞こえました。活動や遊びの中では、時にはケンカやトラブルもありましたが、たくさんの「ありがとう」とともに「ごめんなさい」が聞こえてきました。

私たちはとかく成功体験に目が行きがちですが、実は、失敗の中から学ぶこともあります。むしろその方が多いのかもしれません。学校では、価値観や性格が違う子どもたちと共に活動します。そのような環境や集団での生活を通し、子どもたちは、「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなったと思います。

さて、３月は、たくさんの「さようなら」もあります。子どもたちは、その数だけの愛を知ることができるでしょうか。

２５日には、７７名の６年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げるとともに、子どもたちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々へ厚くお礼申し上げます。また、他の学年の子どもたちも１年間の総まとめに取り組んでおります。進学・進級への大切な残りの日々、変わらぬご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

【6年生を送る会】